

1. 研究活動

[研究発表] 「『変化の共有』が動かすデザインプロセス」	2013. 6	日本デザイン学会第60回春期研究発表大会、グッドプレゼンテーション賞受賞	地域社会に関わるデザイン方法論として、参加者間での「変化の共有」に着目し、事例検証・考察を行った。中村真梨子、芹澤スミコ、萩原 周と共同発表。
[ワークショップ] 「オリジナルの昆虫をデザインする」	2013. 7	第50回全国高等学校美術工芸教育研究大会 生徒対象ワークショップ	デザインにおける機能とかたちの関係を理解するためのワークショップ。
	2013. 8	あいちトリエンナーレ 大学連携プロジェクト	
[パンフレットデザイン] たきこ幼児園開園前パンフレット	2013. 9	たきこ幼児園/社会福祉法人 NUA	新設幼児園のためのアイデンティティー構築の一貫として、開園前パンフレットを制作。
[レクチャー] 「関係をデザインする：地域を舞台にデザイナーたちが試みていること」	2013. 10	飛騨オープンカレッジ 飛騨・世界生活文化センター	様々な事例を通じ、デザイナーが地域に関与する活動とその社会的背景を紹介。
[研究発表] The expectations towards visual literacy - from various aspects of visuals -	2013. 10	ヴィジュアルリテラシー 国際シンポジウム 名古屋大学院情報科学研究科情報文化学部	ヴィジュアルリテラシーの領野とその基礎的視点を、大学基礎教育における観点から考察。
[展覧会企画実施] 「デザイン学部特別客員教授展—多彩なデザインの現場から」	2013. 10	名古屋芸術大学アート&デザインセンター	名古屋芸術大学デザイン学部が招聘した6人の特別客員を紹介する展示のマネジメントに加え、とりわけ服部滋樹客員教授指導のもの行われたデザインプロジェクト紹介パートの展示企画、実施。
[デザインプロジェクト企画実施] 「ここのひとと—土と人のデザインプロジェクト2013」	2013. 7 ～11	名古屋芸術大学近隣地域/名古屋芸術大学デザイン学部	2012年度に引き続き特別客員教授として招聘した服部滋樹氏と共に行った大学周辺の地域をリサーチし、ドキュメンタリー映像を制作、上映会を開催することにより、地域とのつながりを生むプロジェクト。
[書籍装丁] COMMUNITY TRAVEL GUIDE 三陸人	2013. 2	英治出版/issue+design、2014年度グッドデザイン賞受賞、READYFOR OF THE YEAR 2014「参加アイデア部門」受賞	名所・景観を巡るのではなく、地域で魅力的に働く人々に出会うための旅という、新しい地域観光を提案するガイドブックシリーズのうち、三陸地方を取り上げた書籍装丁を担当。
[パンフレットデザイン] ストレスマウテン	2013. 3	神戸市/issue+design	うつ病などの心の病気を普段から自己診断し予防するためのwebサービスと連動したパンフレットのデザインを行った。
[研究発表] Re-positioning Design for a Sustainable Future	2013. 3	国際会議 CREATIVE DESIGN FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT, ユネスコ本部 パリ	UNESCO 国際会議「持続可能な発展を支える創造性豊かなデザイン」で、持続可能な未来のためにはデザインそのものの再定義が必要であるという趣旨の発表を行った。

2. 教育活動 (教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 有 無

授業科目 デザイン理論		多様な学問領域と重なりながら広がるデザイン理論を様々な角度から捉えられるよう、近代デザイン思想、経験、テクノロジー、エコロジー、認知・行動、コミュニケーション、文化形成など、それぞれ異なったテーマを立て、それらに沿って具体的な理論や事例を交え解説した。
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
授業の最後にその時間の内容と関連するテーマでミニレポートを書く時間を作り、書きながら考える体験を積み重ねられるようにした。また、授業最初には前回のミニレポートの中から数点を紹介しながら、関連する視点や事柄についてさらに解説を加えることを繰り返し行った。 また、新たに「経済とデザイン」という授業回を加え、より広くデザインと経済との関係を考える機会を設けた。	難解な理論もできるだけ身近に感じられるよう、画像を多く使ったスライドを毎回用意し、新たに映像資料も講義に加えた。興味を持った理論を学生自身が引き続き探求できるように、授業で扱ったテーマごとの参考書籍リストを作成した。	
授業科目 コミュニケーション論		前半の授業では、コミュニケーションの基礎理論を扱い、根本的なところからコミュニケーションとは何かを考察し、コミュニケーションデザインへのより深い理解へと繋げた。授業の後半では、そのコミュニケーションデザインをどのように地域コミュニティのために活用することができるのか、社会的背景や具体的な事例を通じて解説した。
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
できるだけ最新の具体的な事例を使い、コミュニケーションや地域に関わるデザインについて理解を深められるようにした。 また、新たに3回の授業回を使い、視覚化の概要と歴史、その手法、視覚化の現在について解説する回を設け、デザインや美術とコミュニケーションの関わりをより身近に感じられるようにした。	授業内容が身近に感じられるよう、画像中心のスライドを毎回用意した。加えて、効果的に映像資料も使用した。特に現在進行形で行われている事例については刷新し、各授業回に加えた。	
授業科目 デザイン概論		デザイン学部1年生を対象にした本講座では、「デザイン」に対するより広い視野を獲得することを目的とした。加えて1年次の基礎授業が2年次以降の専門性とどのように繋がっているのか意識的に理解し、2年次以降のより具体的な進路選択に活かすことも意識させた。講座の後半では、オープンディスカッションや先輩によるトークも交えて展開した。
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
受講生が毎回レポートで各授業を振り返る機会を設けたことに加え、初回授業ではレポートの書き方について解説を加えた。またオープンディスカッションの授業回を設定し、直接受講生の考えを全員で共有できる時間をつくった。また、各コースとは直接結びつかない領域とデザインとの繋がりについて学ぶ特別回も用意し、よりデザインを幅広く考える機会をつくった。		

授業科目 デザイン基礎演習 B-2		<p>畑を耕し、作物を育て、料理を考案し、空間を設え、招待状をデザインする。それら全ての要素の集積として、最終的に招待客を招いて「おもてなしの時間」を作り出すことを試みるという、様々なデザイン分野を横断する一連の作業を通じ、デザインが多様な要素から成立し生活のそれぞれの場面を支えていることを体感し理解することを目標とした授業構成を行った。</p>
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
それぞれの段階毎に順序を追って、学生自らがアイデアをつくり出し、それを試行錯誤できるよ、各授業毎にテーマを設定する授業展開を行った。	それぞれの授業回毎に設けられたテーマ毎にワークシートを用意した。テーマによって考慮する必要項目を理解し、グループ毎のディスカッションが具体的な計画へスムーズにまとめられるようにした。	
授業科目 立体造形（回転体による成型実習）		<p>デザイン学部一年次で実施するファンデーション（基礎実技）の専任として、課題内容、配布物、スケジューリングやスタッフィング、学生へのオリエンテーション等、総合的な視点からファンデーション管理運営に関わった。基礎実技の改定に向けた検討も同時に行った。</p> <p>また、新たに前後期にそれぞれ一回ずつ、グループワークでのワンデーワークショップの機会を設け、それぞれの回で新たな側面や方法を学ぶことのできる機会を設けた。</p>
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
毎回、全員と面談をし、課題の進捗状況や次回までの具体的なアドバイスをを行った。特に、観察からイメージスケッチ、図面から回転体制作までのそれぞれの工程がどのような意味をもつか理解できるよう指導した。	特に、観察からどのようにオリジナルの形態へとつなげられるか、例を示しながら解説した。また、各工程での注意点を具体的にデモンストレーションを通じて示した。	
授業科目 デザイン実技I (F1) -あなたの素材観（感）		
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
毎回、全員と面談をし、課題の進捗状況や次回までの具体的なアドバイスをを行った。特に、自分独自の視点で編集できるように面談を通じて学生の興味や視点を具体的に掘り起こす指導をした。	過去の参考作品を効果的に使いながら、どのように観察し、編集するのか実例を通じて指導した。また、基本的な製本についての理解を助ける資料を用意した。	
授業科目 デザイン実技I (F2) -明かりのデザイン・私の店		
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
毎回、全員と面談をし、課題の進捗状況や次回までの具体的なアドバイスをを行った。特に、デザインアイデアをより質の高いものへ発展させられるよう、使用者や使用場所の特性に意識を向けるよう指導した。	最終的な作品制作の前段階としての、スケッチでのアイデア展開では、具体的な事例を例示しながら出来るだけ広くアイデアが広げられるようにした。	

授業科目 デザイン実技I (F3) - 廃品による素材体験		
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
毎回、全員と面談をし、課題の進捗状況や次回までの具体的なアドバイスをを行った。特に、手触りや素材の特性について意識的に関心が向けられるよう助言を行った。また、立体構成に苦手意識を感じている学生に対しては平面的な作業との共通点についても目が向けられるよう指導した。	毎回授業で使用するワークシートで自分の制作を丁寧に振り返る時間をつくった。	
授業科目 デザイン実技Ⅲ-1 (LS)		
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
特定のフィールドを設定して、丹念にフィールドワークを繰り返すことによって環境の特性を読み解き、より本質的な視点得るための方法を体験させた。また、フィールドワークを通じて見いだした視点を他者に伝わる表現として編集することを求め、またそこから更にグループワークを経て具体的なデザイン提案へと展開するという一連のプロセスを踏めるような授業構成とした。また、授業の前半と課題講評時に人類学を専門とする講師を招き、人類学的フィールドワークの視点も授業に取り込んだ。	デザインリサーチのためのフィールドワーク手順を簡潔にまとめた資料や、プレスト、シャッフル・ディスカッション、KJ法、ペルソナ手法、シナリオ手法などコンセプト立案のための手法をまとめた教材を用意した。また、課題書は授業の前後半のそれぞれの段階で学生が理解しやすいよう2つに分けて用意した。また、各課題で、作品アイデアを整理するためのワークシートを作成した。	実際の都市環境をフィールドとして読み取り、Atlas：地図帳を制作するという課題を通じて、フィールドワークを中心とした多様なリサーチ手法の習得と同時に、環境をより深い視点から分析し、その視点を編集し表示する方法を学ぶ。リサーチによって得られた視点と具体的なデザイン提案との間との関係を実際の提案作成作業を通じて意識化させた。
授業科目 デザイン実技Ⅱ-3 (LS)		
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
関連した二つの課題によって行った。課題「If」では、普段見慣れたモノに、ある「仮定」を設定した上でどのようにその形態を変化させることができるのか発想し、条件と形態との関連について意識的に考える機会をつくった。課題「可能性発見からのデザイン」では、モノの「可能性:意図されていない使われ方」に目を向け、モノと使用者との関係について意識的に考える機会をつくった。それら2つの課題によってモノをとりまく諸相についてより分析的に捉えられるよう指導した。	それぞれの課題では導入となるワークショップを用意してよりスムーズに課題に取り組めるようにした。また、if課題では具体的な仮定ストーリーを用意し、より実感を伴ったデザイン発想へとつなげられるようにした。また、課題書は、課題を通じて何を理解し、どのような視点を得ることが期待されるか明確に記したものを用意した。	課題「If」では、身近なモノをとりまく「条件」を変化させることによって、どのようにその形態が変化するか想像し、モノの形態が様々な関係性の上に成立していることを理解させた。課題「可能性発見からのデザイン」では、使用者によるモノの使用を分析し、その気付きからの制作を体験させた。それによって、環境や認知・行動に対する洞察力を伴った、環境やモノのもつ「可能性」からのデザイン発想の理解へとつなげた。

### 3. 学会等および社会における主な活動

基礎デザイン学会	2010～	研究会参加・学会発表
日本デザイン学会	2011～	研究会参加
メタデザイン研究会 (Metadesigners Network Japan)	2008～	研究会、ワークショップ等主催
名古屋大学メディア研究会	2012～	研究会幹事 研究発表／研究会等参加